



# 2016（平成 28）年度 事業報告書

2016 年 5 月 1 日～2017 年 4 月 30 日

認定 NPO 法人アイキャン

460-0011

愛知県名古屋市中区大須 3 丁目 5-4

矢場町パークビル 9 階

TEL:052-253-7299

E-MAIL:info@ican.or.jp

HP:http://www.ican.or.jp



## 2016 年度を振り返って

本年度も、アイキャンと「ともに」活動して下さった皆様に対し、厚く御礼申し上げます。ここに、23 年目となる 2016 年度の活動の報告をさせていただきます。

アイキャンは、1994 年にフィリピンで活動を開始し、2014 年まで資源をフィリピンに集中し、「選択と集中」によって、フィリピンでの課題解決能力を高めてきました。2015 年、世界情勢の急激な変化を踏まえ、フィリピンで培った経験をもとに、世界最大の人道危機と言われつつも、世界の関心が低いイエメンの紛争の被害者への食糧の提供や難民キャンプでの子どもの活動を開始しました。そして、今年度は、そのイエメンでの活動規模が、フィリピンでの活動規模を抜くこととなりました。アイキャンの歴史において、1 つの象徴的な一年であったと言えます。

フィリピンや日本でも多くの挑戦の年となりました。フィリピンでは、国立フィリピン大学の大学内において元路上の子どもたちのカフェの運営を開始し、ミンダナオでは、学校が存在しなかった山奥の先住民の村で、学校の建設を行いました。また、同じミンダナオの紛争地では、不安定な状況の中でも、広範囲の紛争地域に平和教育を普及することができました。一方、日本も、日本国内においては、今年度も「NGO 相談員」として、中部地域を中心とした地方における NGO 活動への関心層や実践者を増やすことに努めた一方、日本の NGO 全体の活動環境を向上するための事業も開始いたしました。

世界中の子どもたちが平和な社会で暮らせるように、今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。

## 2016 年成果概要

「危機的状況にある子どもたちと『ともに』行うプログラム」を通じて、2016 年度生活が向上した人数

**70,772 人**・団体

(空腹を満たされた 53,256 人、生活必需品を手に入れた 14,334 人、  
教育環境が向上した 1,034 人、より平和な環境を手に入れた 784 人等)

『できること (ICAN)』を実践する人を増やすプログラム」を通じて、2016 年度できることを実践した人数

**13,720 人**・団体 **合計 84,492 人**・団体

(世界の貧困問題等について学んだ 8,485 人・団体、改善しようと行動した 4,866 人・団体等)

注：上記は、「延べ数」ではなく、事業に直接的に参加した人数に寄付者・会員・ボランティアを加えた実数表記となります。例えば、年 20 回ボランティアをしても 1 人と数えており、また、保健師の研修を行い、その後益を受ける患者数等の「間接的な人数」も含まれていません。上記の数には団体も含まれているので、例えば、500 の生徒が募金活動をして、1 つの学校の名前でアイキャンに寄付をした場合、1 として計算しています。また、本報告書本文の数字も可能な限り、「延べ数」ではなく、実数表記にしております。

# 2016 年度のハイライト

---

## 1、「危機的状況にある子どもたち」のプログラム

～フィリピンでの活動を発展させるとともに、イエメン避難民への活動規模を拡大させました～

- ・2016 年度計画書における重点項目 1「急激な都市化・グローバル化における課題」を解決するために、マニラで「ごみ処分場周辺に住む子どもたち」と「路上の子どもたち」の事業を実施しました。前者では、フェアトレード生産者団体と協同組合の 2 つの組織に対する運営への助言やモニタリングを継続させる一方、重い疾患を抱える子どもへの医療補助も開始しました。後者では、前年度に開所したアイキャンの児童養護施設「子どもの家」において、元路上の子どもたちの生活と通学を継続させるとともに、元路上の子ども・若者が研修を受け、現在も路上にいる子どもに「路上教育」を行う場としても活用しました。また、一時保護施設「ドロップインセンター」の運営を継続し、路上の子どもたちに食事や教育の機会を提供する一方、元路上の若者たちによるカフェの運営においては、利益拡大に向け、カフェの店舗を国立フィリピン大学ディリマン校内に移転させました。
- ・同重点項目 2 の「紛争地の平和と安定」に向けた活動として、「紛争の影響を受けた子どもたち」、「先住民の子どもたち」、「ジェネラルサントスの子どもたち」の 3 つの事業を実施しました。ミンダナオ島中部の紛争地域では、3 年計画の 2 年目として、平和教育が活発な「平和の学校」を作る活動や、モロ・イスラム解放戦線（MILF）の兵士等への平和教育を引き続き実施しました。ミンダナオ島北部においても、先住民の子どもたちの教育環境を改善するため、教師等に研修を行い、先住民ティグワハノンの子どもたちに適したカリキュラムの作成や、村での初めてのコンクリート校舎の建設を行いました。また、2015 年 3 月から続くイエメンでの紛争被害に対し、国内避難民への食糧提供を継続的に行うとともに、対岸のジブチに逃れた難民の子どもたちを保護する活動として、「子どもの広場」の運営や、保護者への「子どもの権利」に関する研修などを行いました。
- ・同重点項目 3 の「多発する自然災害の被害を最小限に」する活動としては、「災害の影響を受けた子どもたち」の事業として本年度新たに出動した活動はありませんでしたが、フィリピンの災害情報を常に収集するとともに、2013 年 11 月に発生した台風ハイエンの被災地レイテ島において、建設・修復した小学校教室の活用状況モニタリングを行い、地元の子どもたちが大切に活用していることを確認いたしました。

## 2、「『できること(ICAN)』を増やす」プログラム

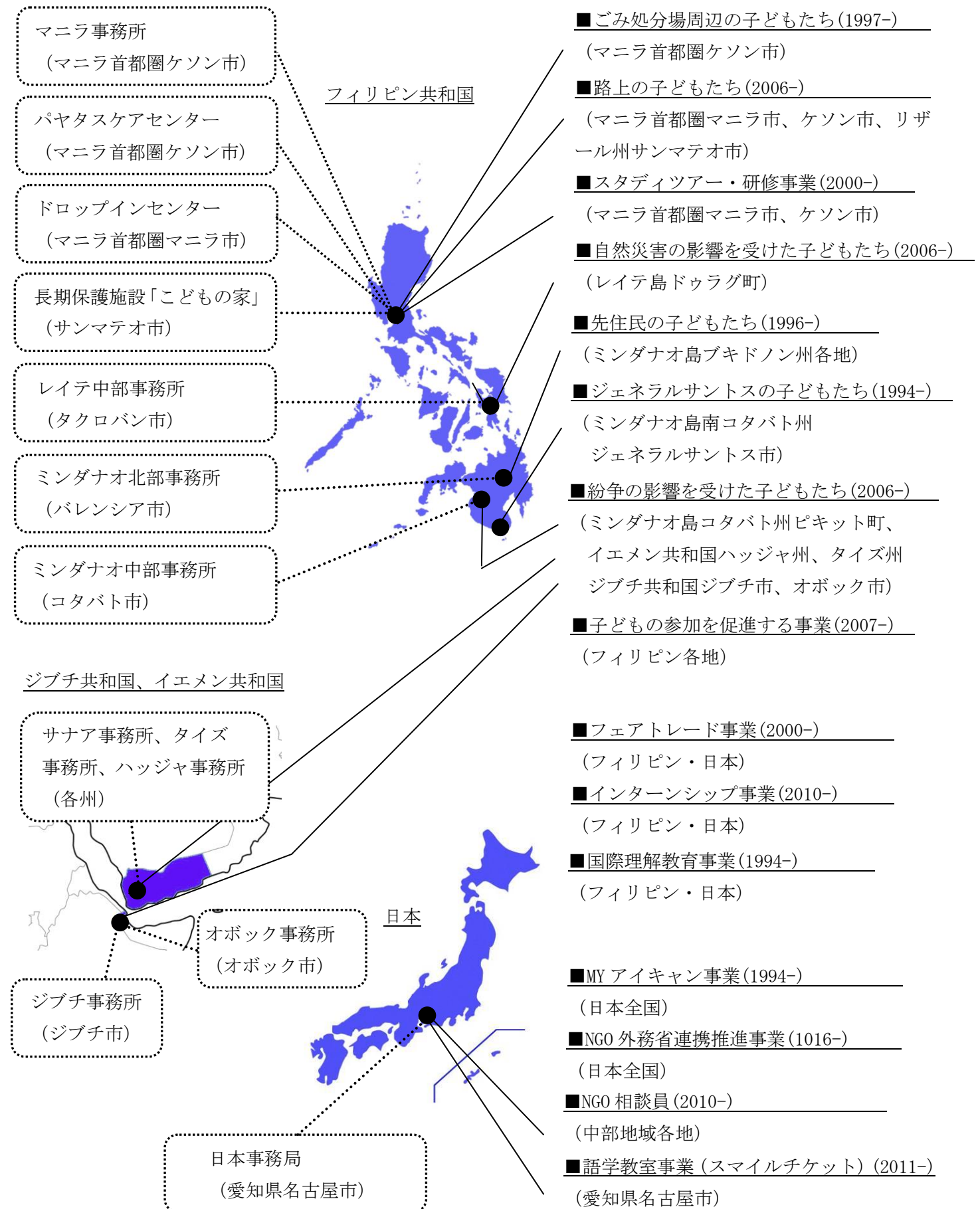
～日本の NGO 全体の活動環境を向上させるために、新たに「NGO 外務省連携推進事業」を開始しました～

- ・「MY アイキャン事業」の街頭募金では、前年度の 149 名（延べ 213 名）を上回る 197 名（延べ 273 名）のボランティアが参加し、児童養護施設「子どもの家」の設立・運営に対して、1,552 名（昨年度 1,299 名）から寄付を得ることができました。古本・CD・DVD の寄付は、前年度の 2 倍以上となる約 21 万円分を集めることができ、活動が広がっています。
- ・今年で 9 年目となる「国際理解教育事業」は、前年度の参加人数（日比合計）4,457 名から 4,897 名に増加させることができ、また、英語やタガログ語を学ぶ「語学教室事業（スマイルチケット）」では、昨年度の 369 授業 37 名から 415 授業 39 名に増加しました。
- ・「スタディツアー・海外研修事業」では、通常のツアー及びボランティア活動が中心となる「ボランティアツアー」を計 6 回開催し、46 名が参加しました。「フェアトレード事業」では、前年度のボランティア 49 名（延べ 78 名）から、今年度はボランティア 51 名（延べ 69 名）へと実数は増加した一方、大型イベントにおいて飲食出店がなくなり、物品販売のみとなったことが影響し、購買者は昨年度の 1,890 名から 754 名へと減少しています。
- ・今年度も引き続き「NGO 相談員事業」を外務省より受託し、昨年度の 1,196 件を上回る 1,273 件の NGO 等に関する相談に対応し、「インターン育成事業」では、日本事務局・マニラ事務所合わせて 6 名を受け入れました。更に、2016 年 11 月より、新たに「NGO 外務省連携推進事業」を開始し、事務局長井川が、全国の NGO と外務省の公式の協議の場である「NGO 外務省連携推進委員会」の NGO 側委員（2017 年 4 月からは副座長）となりました。

# アイキャン拠点及び事業地分布図

## アイキャン拠点（事務所）

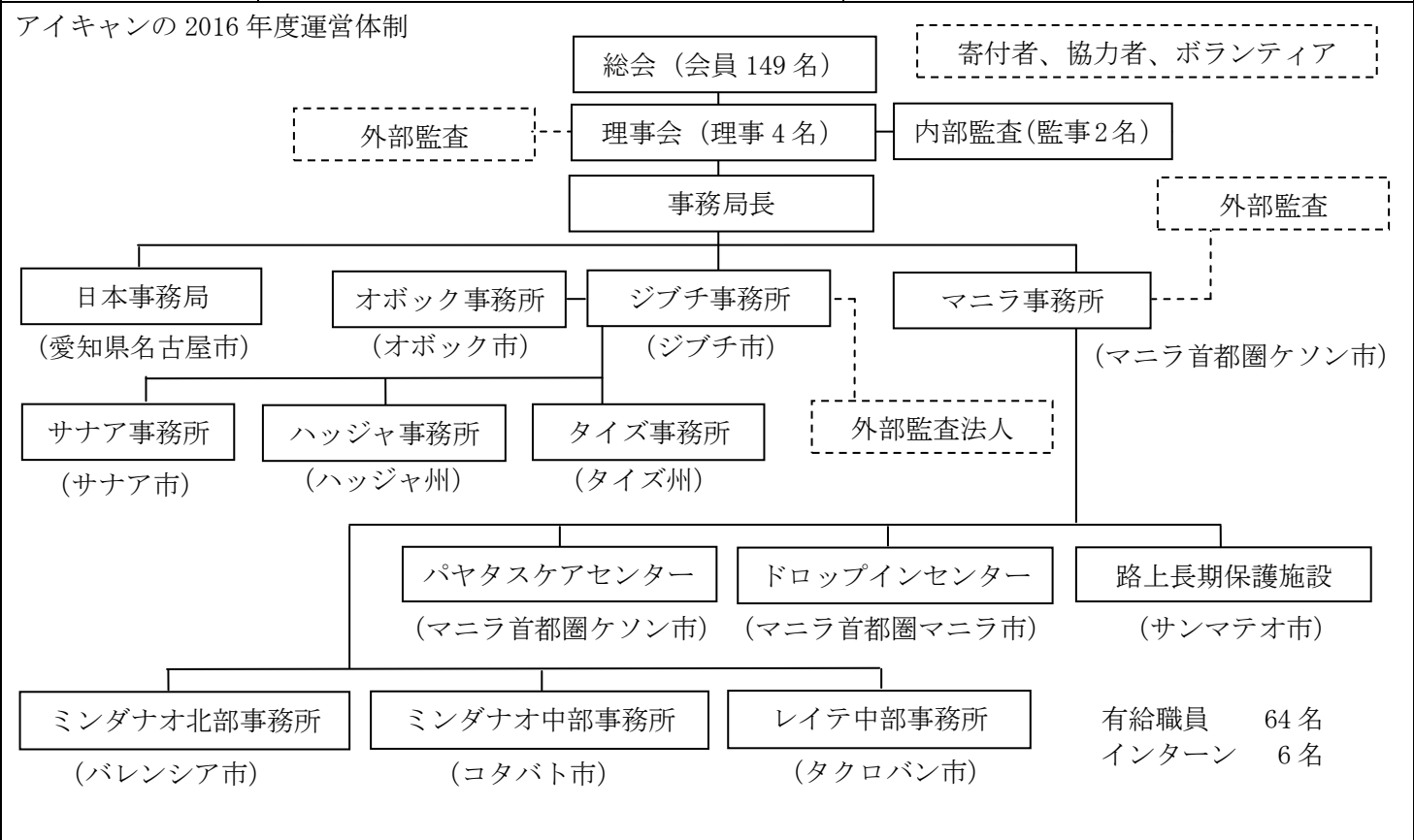
## アイキャン実施中プロジェクト





アイキャンの概要

|                     |                                                                                                                |                                                                                                                                             |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アイキャンの<br>始まり       | フィリピンを訪れた一人の会社員が、路上の子どもたちと出会い、自分たちにも「できること (ICAN)」はないかと思い、1994 年 4 月 1 日に設立。(2000 年法人化)                        |                                                                                                                                             |
| アイキャンが<br>解決したい課題   | 現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない危機的な状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。                                           | 地球規模の様々な課題に対し、生まれ育った地域に根差して取り組むことができる機会は、依然として限られており、日本では特に東京以外の地域において顕著です。                                                                 |
| アイキャンの<br>理念        | 「アイキャンな人 (できることを実践する人)」を増やすことで、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会をつくります。                                                     |                                                                                                                                             |
| アイキャンの<br>2016 年度事業 | I、危機的状態にある子どもたちと「ともに」<br>行うプログラム                                                                               | II、「できること (ICAN)」を増やす<br>プログラム                                                                                                              |
|                     | 1、紛争の影響を受けた子どもたち<br>2、路上の子どもたち<br>3、先住民の子どもたち<br>4、ごみ処分場周辺に住む子どもたち<br>5、自然災害の影響を受けた子どもたち<br>6、ジェネラル・サントスの子どもたち | 7、国際理解教育事業<br>8、語学教室事業 (スマイルチケット)<br>9、スタディツアー・海外研修事業<br>10、フェアトレード事業<br>11、NGO 相談員事業<br>12、NGO 外務省連携推進事業<br>13、インターンシップ事業<br>14、MY アイキャン事業 |



|                                                                                                                    |                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| <b>代表理事</b> 田口 京子 養護学校教諭<br><b>理事</b><br>鈴木 真帆 看護師<br>高畑 幸 静岡県立大学国際関係学部准教授 (文学博士)<br>宮脇 聡史 大阪大学大学院言語文化研究科講師 (文学博士) | <b>監事</b><br>龍田 成人 会社員、設立者 (工学博士)<br>林 俊彰 税理士 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|

参加ネットワーク 12 件 (前年度 11 件)

| ネットワーク・団体名                    | 種別   | 詳細                                               |
|-------------------------------|------|--------------------------------------------------|
| (特活) 国際協力 NGO センター (JANIC)    | 正会員  | 全国規模のネットワーク NGO                                  |
| (特活) 名古屋 NGO センター             | 正会員  | 中部地域のネットワーク NGO                                  |
| 児童労働ネットワーク                    | 正会員  | 児童労働解消を目的としたネットワーク                               |
| 「動く→動かす」                      | 正会員  | ミレニアム開発目標達成のための NGO ネットワーク                       |
| NGO と企業の連携推進ネットワーク            | 正会員  | NGO と企業の連携を推進する全国ネットワーク                          |
| 多文化共生リソースセンター東海               | 正会員  | 東海地域の多文化共生を促進するネットワーク                            |
| フェアトレード名古屋ネットワーク              | 正会員  | 名古屋でフェアトレードを推進するネットワーク                           |
| NCSDF                         | 正会員  | フィリピンの社会開発のための組織のネットワーク                          |
| (特活) ジャパン・プラットフォーム            | 賛助会員 | 緊急救援のネットワーク NGO (カテゴリー4)                         |
| 中部 ESD 拠点協議会                  | 参加団体 | 中部地域の ESD を促進するネットワーク                            |
| 2016 年 G7 サミット市民社会プラットフォーム    | 参加団体 | 伊勢志摩サミットに向け、国内外の CSO の円滑な情報共有や相互連携を促進するネットワーク    |
| 市民ネットワーク for TICAD (Afri-can) | 団体会員 | アフリカ開発会議 (TICAD) が真にアフリカの市民に役立つものとなるよう活動するネットワーク |

寄付によるパートナー 106 法人・団体 個人 3,686 名 (前年度 150 法人・個人 5,017 名)

|                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【ア行】愛知県立一宮興道高等学校、愛知県立岡崎工業高等学校、愛知県立岡崎東高等学校、愛知県立新城高等学校、愛知県立瀬戸窯業高等学校、愛知県立天白高等学校、愛知県立豊橋工業高等学校、愛知県立豊橋南高等学校、愛知県立日進西高等学校、愛知県立守山高等学校ボランティア部、愛知工業大学名電高等学校、愛知淑徳中学校、ICAN+S、IT 飲み会、Attic Tours Philippines, Inc.、ANGAT、いきつ、イビデン、イオンリテール、岩手看護短期大学看護科、WECAN、遠藤システム、エンジェルズアーク、オーケーサービス知多 |
| 【カ行】カサイ製作所、可児市立今渡北小学校、かみひとねっとわーく京都、カモン、ガールスカウト岐阜県第八団、岸和田市立葛城中学校 H28 年 1 年生、北医療生活協同組合組合員有志一同、北茂紀建築構造事務所、近畿日本ツーリスト、金城学院中学校、KURIKINDI、元気サロンマリイット、幸田町立南部中学校、コープあいち、コープあいち WECAN、国士舘大学、こやま招福堂鍼灸院                                                                               |
| 【サ行】札幌北斗高等学校、三光ライト工業所、ジェイテクト、JICA 北陸、順天中学校・高等学校、真如苑、スタディツアー参加者有志、SpiceWorx Consultancy, Inc.、聖カピタニオ女子高等学校、聖霊中学高等学校                                                                                                                                                        |
| 【タ行】第一生命保険 ITBP 企画部、田中明美税理士事務所、田中皮膚科、タナベ観光、地球愛祭り愛知実行委員会、知多市立旭北小学校、チチカカ、中京大学環境サークル NEO、デンソー、天白助産所、東海エレクトロニクス、東海クリエイト、東海理化、東海ルブコン、戸田空調、豊明市立三崎小学校、豊川高等学校インターアクトクラブ、豊田通商、豊橋市立岩田小学校、Dream Creator                                                                              |
| 【ナ行】長野県上田高等学校ボランティアクラブ、名古屋 NGO センター、名古屋国際中学校・高等学校、名古屋市立伊勢山中学校、名古屋市立名東高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋中郵便局、日建コンサルティング、日本郵船、日本ゼネラルフーズ、にんじん club、NORO モーターズ                                                                                                                               |
| 【ハ行】白鶴化成、ヒューマンネットワーク、広島学院中学校・高等学校、福井市立西部保育園、藤喜商事、ブックオフコーポレーション、FILIPINO COMMUNITY ORGANIZATION of YOKKAICHI                                                                                                                                                               |
| 【マ行】マイビジネスサービス、前田工務店、Manila Express、マロ、蜜元研究所、ミルボーン、メルコ                                                                                                                                                                                                                    |
| 【ヤ行】ヤフー、山のハム工房グローバル、ユースサポートそよ風、四日市市立羽津中学校                                                                                                                                                                                                                                 |
| 【ラ行】リトルダイナーばんぶるびい、レ・ヴァン、Leony Carvajal, Sai Esguerra                                                                                                                                                                                                                      |

|                                                           |      |
|-----------------------------------------------------------|------|
| 【ワ行】 ワインの会、和良農産                                           | ※敬称略 |
| 個人 3,686 名（一般寄付者 1,867 名、マンスリーパートナー267 名、街頭募金寄付者 1,552 名） |      |
| 個人情報保護の観点から氏名は割愛 ※件数ではなく実人数の表記                            |      |

## 助成事業によるパートナー 15 件（前年度 20 件）

| 団体・機関名・助成金名                                                | 事業名・事業内容                                                                                    |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| Japan Platform(JPF)<br>(2015 年 12 月～2016 年 5 月)            | イエメン紛争被害者に対する緊急救援物資提供事業<br>(フェーズ 1)                                                         |
| Japan Platform(JPF)<br>(2016 年 2 月～2016 年 6 月)             | ジブチ共和国におけるイエメン難民子どもの保護事業<br>(フェーズ 1)                                                        |
| 外務省 NGO 連携無償資金協力<br>(2016 年 3 月～2017 年 3 月)                | ミンダナオ島ブキドノン先住民地域における教育課題解決能力強化事業                                                            |
| 外務省 NGO 連携無償資金協力<br>(2016 年 3 月～2017 年 3 月)                | ミンダナオ島バンサモロにおける平和教育実施能力及び紛争調停能力強化事業（2 年目）                                                   |
| ゆうちょ財団<br>(2016 年 4 月～2017 年 3 月)                          | 貰う存在ではなく、与える存在に。<br>～マニラの路上の子どもたちの挑戦プロジェクト～                                                 |
| 公益信託愛・地球博開催地域社会貢献基金（2016 年 4 月～2017 年 3 月）                 | 貰う存在ではなく、与える存在に。～マニラの路上の子どもたちの挑戦プロジェクト（拡大展開編）～                                              |
| 大阪コミュニティ財団<br>(2016 年 4 月～2017 年 3 月)                      | マニラ市の路上の子どもの命を守るドロップインセンタープロジェクト                                                            |
| 毎日新聞大阪社会事業団<br>(2016 年 4 月～2017 年 3 月)                     | フィリピンで運営するドロップインセンター（通所型保護施設）と児童養護施設「子どもの家」の運営                                              |
| 公益財団法人パブリックリソース財団<br>(2016 年 5 月～2017 年 4 月)               | 路上の子どもの児童養護施設「子どもの家」建設事業                                                                    |
| Spouses of Heads of Mission (SHOM) (2016 年 5 月～2017 年 6 月) | A Challenge of Child Advocates: Street Education Project by former children on the Streets. |
| Japan Platform(JPF)<br>(2016 年 6 月～2016 年 10 月)            | ジブチ共和国におけるイエメン難民子どもの保護事業<br>(フェーズ 2)                                                        |
| フェリシモ地球村の基金<br>(2016 年 9 月～2017 年 8 月)                     | もっと多くのマニラの路上の子どもたちに愛情溢れた生活を！                                                                |
| Japan Platform(JPF)<br>(2016 年 10 月～2017 年 3 月)            | イエメン紛争被害者に対する緊急救援物資提供事業<br>(フェーズ 2)                                                         |
| 外務省 NGO 連携無償資金協力<br>(2017 年 3 月～2018 年 3 月)                | ミンダナオ島バンサモロにおける平和教育実施能力及び紛争調停能力強化事業（3 年目）                                                   |
| Japan Platform(JPF)<br>(2017 年 4 月～2017 年 9 月)             | イエメン紛争被害者に対する緊急救援物資提供事業<br>(フェーズ 3)                                                         |

## 受託事業によるパートナー 6 件（前年度 9 件）

| 団体・機関名                                | 事業名・事業内容                                                         |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 外務省<br>(2016 年 4 月～2017 年 3 月)        | 外務省 NGO 相談員（7 年目）：中部地域における NGO に関する相談窓口                          |
| (株) マイチケット<br>(2016 年 6 月～7 月)        | 名古屋国際中学校高等学校国際理解研修（6 年目）：開発問題の学習と将来のキャリア形成を目的とした高校生海外研修現地コーディネート |
| (株) マイチケット<br>(2016 年 8 月～2017 年 3 月) | スタディツアー現地手配業務（1 年目）：アイキャン事業地訪問コーディネート（本年度より受託事業区分へ）              |
| 中部電力株式会社<br>(2016 年 11 月～2017 年 3 月)  | エコポイント活動（6 年目）：フィリピンの路上の子どもたちとのエコアクション                           |
| (株) マイチケット<br>(2017 年 3 月)            | 長野県上田高等学校フィリピン海外研修（2 年目）：開発問題の学習と将来のキャリア形成を目的とした高校生海外研修現地コーディネート |
| 外務省<br>(2017 年 4 月～2018 年 3 月)        | 外務省 NGO 相談員（8 年目）：中部地域における NGO に関する相談窓口                          |

## メディア掲載 68 件（前年度 67 件）

| 日付        | 媒体名 「題名・番組名」 (内容)                                                                                           |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 月       | 2015 年版開発協力白書 「平和構築支援 ミンダナオ和平（日本の取組）」（平和構築）                                                                 |
| 5 月       | アジ研ワールド・トレンド 6 月号 「イエメン 忘れ去られた『アラブの春』の落とし子」（イエメンの状況）                                                        |
| 5 月 1 日   | まにら新聞「生演奏、ダンスで盛り上げ」（チャリティイベント）                                                                              |
| 5 月 30 日  | PR TIMES 「【フィリピン】政権交代後のミンダナオ平和樹立へ向けて—アイキャン、MILF に対して『平和の文化と紛争』研修を実施」（平和構築）                                  |
| 5 月 31 日  | Global News Asia 「【フィリピン】ミンダナオ平和樹立へ向けて『平和の文化と紛争』研修を実施 —NPO 法人アイキャン」（平和構築）                                   |
| 6 月 7 日   | 聖霊中学高等学校時報第 139 号 「フィリピンとの交流」（絵手紙交流）                                                                        |
| 7 月 31 日  | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #45」（ジブチ）                                    |
| 8 月 1 日   | フィリピン primer ブログ 「フィリピンで働く人図鑑」（職員紹介）                                                                        |
| 8 月 15 日  | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #46」（ジブチ）                                    |
| 8 月 23 日  | JFN PARK 「ON THE PLANET」（職員インタビュー）                                                                          |
| 9 月 1 日   | あいち国際プラザ ニュースレター No. 115 「特集」（絵手紙交流、書き損じハガキ回収活動）                                                            |
| 9 月 21 日  | JFN PARK 「ON THE PLANET」（職員インタビュー）                                                                          |
| 10 月 1 日  | JICA 広報誌 mundi 10 月号 「くまの笑顔は、女性の誇り」（フェアトレード）                                                                |
| 10 月 14 日 | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #47」（ジブチ）                                    |
| 11 月 2 日  | Yemen Shabab チャンネル 「coverage of food basket distribution in Taiz by CSSW-ICAN-JPF」（イエメンでの食糧提供）              |
| 11 月 2 日  | Aden Algad 「launching of food distribution in Taiz by CSSW/ICAN/JPF」（イエメンでの食糧提供）                            |
| 11 月 2 日  | Yemen Voice 「“Emergency relief project” launching food distribution in Taiz by CSSW, ICAN, JPF」（イエメンでの食糧提供） |
| 11 月 2 日  | Aden Tomorrow 「Approximately 5000 food basket distribution in Taiz by CSSW」（イエメンでの食糧提供）                     |



|     |     |                                                                                                                                                        |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |     | ンでの食糧提供)                                                                                                                                               |
| 11月 | 2日  | Masadar Net 「launching food “Emergency relief project” in Taiz by CSSW」 (イエメンでの食糧提供)                                                                   |
| 11月 | 6日  | Aden Algad 「Approximately 5000 food baskets distribution in Taiz by CSSW/ICAN/JPF」 (イエメンでの食糧提供)                                                        |
| 11月 | 6日  | Aden Tomorrow 「CSSW implement “Emergency relief project” in Taiz by Japanese donors」 (イエメンでの食糧提供)                                                      |
| 11月 | 13日 | Aden Algad 「Approximately 5000 families have got food baskets provided by the Emergency relief project In Taiz by CSSW-ICAN-JPF」 (イエメンでの食糧提供)          |
| 11月 | 13日 | Aden Tomorrow 「Approximately 5000 families have got food baskets provided by the Emergency relief project In Taiz by CSSW-ICAN-JPF」 (イエメンでの食糧提供)       |
| 11月 | 14日 | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #48」 (ジブチ)                                                                              |
| 11月 | 21日 | 中日新聞 「『日本で何したい』 マニラの子と会話」 (スカイプ交流)                                                                                                                     |
| 11月 | 22日 | 中日新聞 「比の路上生活児と交流」 (スカイプ交流)                                                                                                                             |
| 11月 | 23日 | Suhail TV 「Urgent relief food distribution for affected people in Taiz implemented by CSSW with partnership with ICAN funded by JPF」 (イエメンでの食糧提供)      |
| 11月 | 25日 | PR TIMES 「マニラの元路上の若者たちが運営する『カリエカフェ』が、国立フィリピン大学内にリニューアルオープン！」 (路上の子ども)                                                                                  |
| 11月 | 27日 | まにら新聞 「バンドやダンスで盛り上がる」 (チャリティイベント)                                                                                                                      |
| 11月 | 27日 | フィリピン primar ブログ (チャリティイベント)                                                                                                                           |
| 11月 | 28日 | Sanaa TV 「Urgent relief food distribution for affected people in Taiz implemented by CSSW with partnership with ICAN funded by JPF」 (イエメンでの食糧提供)       |
| 12月 | 12日 | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #49」 (ジブチ)                                                                              |
| 1月  |     | さんぐりあ Vol.114 「加盟団体だより」 (団体紹介)                                                                                                                         |
| 1月  |     | JPF NEWS Vol.16 「イエメン人道危機対応」 (イエメン、ジブチでの活動)                                                                                                            |
| 1月  | 13日 | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #50」 (ジブチ)                                                                              |
| 1月  | 18日 | 電気新聞 「電力会社の仕事説明」 (スカイプ交流)                                                                                                                              |
| 1月  | 19日 | 中日新聞 「比の路上生活児支えて」 (書き損じハガキ回収活動)                                                                                                                        |
| 1月  | 19日 | GLOBAL NEWS ASIA 「マニラ『こども支援のアイキャン』-書き損じハガキを募集」 (書き損じハガキ回収活動)                                                                                           |
| 1月  | 24日 | キャッチネクスト 「KATCH TIME 30」 (スカイプ交流)                                                                                                                      |
| 1月  | 25日 | 中日新聞 「比の貧困児 現状学ぶ」 (スカイプ交流)                                                                                                                             |
| 1月  | 28日 | Barakesh Net 「CSSW with the partnership with ICAN and funded by JPF phase 4 (Relief more than one thousand affected people in Taiz)」 (イエメンでの食糧提供)      |
| 1月  | 28日 | Aden Algad 「Launching the distribution for more than one thousand affected people in Taiz funded by JPF and implemented by CSSW and ICAN」 (イエメンでの食糧提供) |
| 1月  | 28日 | Alsahwa Net 「More than one thousand affected people in Taiz get food baskets funded by JPF and implemented by CSSW and ICAN」 (イエメンでの食糧提供)              |
| 1月  | 29日 | Yemen Voice 「CSSW and ICAN funded by JPF implementing a relief project (food baskets) for more than one thousand affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供) |
| 1月  | 30日 | Suhail TV 「CSSW with the partnership with ICAN and funded by JPF phase 4 (Relief more than one thousand affected people in Taiz)」 (イエメンでの食糧提供)         |
| 1月  | 31日 | Sanaa TV 「CSSW with the partnership with ICAN and funded by JPF phase 4 (Relief more                                                                   |

|          |                                                                                                                                                                                                         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | than one thousand affected people in Taiz)」 (イエメンでの食糧提供)                                                                                                                                                |
| 1 月 31 日 | Altageer Net 「CSSW and ICAN funded by JPF implementing a relief project (food baskets) for more than one thousand affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供)                                                 |
| 2 月 1 日  | Hadramout Net 「Closing Phase 4 for the relief project in taiz implemented by CSSW and ICAN and funded by JPF」 (イエメンでの食糧提供)                                                                              |
| 2 月 2 日  | AlKaheeg Eyes 「Distribution of food baskets for affected people in Taiz implemented by CSSW and ICAN and funded by JPF」 (イエメンでの食糧提供)                                                                    |
| 2 月 2 日  | 中日新聞 「比の路上生活児と交流」 (スカイプ交流)                                                                                                                                                                              |
| 2 月 4 日  | 刈谷ホームニュース 「路上生活の現状知る授業」 (スカイプ交流)                                                                                                                                                                        |
| 3 月 10 日 | NIKKEI ASIAN REVIEW 「Mountain of garbage blights Manila」 (フェアトレード商品生産者団体 SPNP の紹介)                                                                                                                      |
| 3 月 12 日 | UNHCR 「Djibouti Update for the Response to the Yemen Situation #51」 (ジブチ)                                                                                                                               |
| 3 月 13 日 | Soot Al-horia 「By the fund of JPF, CSSW in cooperation with ICAN organization launched the fifth phase of emergency relief project in Taiz.」 (イエメンでの食糧提供)                                               |
| 3 月 13 日 | Bras Mandab 「By the fund of JPF, CSSW in cooperation with ICAN organization launched the fifth phase of emergency relief project in Taiz. 」 (イエメンでの食糧提供)                                                |
| 3 月 13 日 | Yemen News 「CSSW and ICAN Japan organization launched phase five of emergency relief project in Taiz by the fund of JPF Japanese organization for 831 families.」 (イエメンでの食糧提供)                           |
| 3 月 13 日 | Aqaleem Brees 「About 831 HH have benefited from the CSSW and ICAN organization in phase five for emergency relief project in Taiz by fund of JPF」 (イエメンでの食糧提供)                                          |
| 3 月 13 日 | Yemen Saba Agency for News 「CSSW in cooperation with ICAN launched the fifth phase of emergency relief project in the present of local authority in Taiz for 831 HH by fund of JPF」 (イエメンでの食糧提供)        |
| 3 月 14 日 | Yemen News 「CSSW in cooperation with ICAN organization and fund by JPF Japanese organization launched phase five for 831 HH who are affected by event in Al-Wazya District, Taiz.」 (イエメンでの食糧提供)         |
| 3 月 14 日 | Yemen Voice 「Fifth phase of emergency relief project for affected in Al-Wazya was launched by fund of JPF Japan organization and implemented by CSSW in cooperation with ICAN for 831 HH.」 (イエメンでの食糧提供) |
| 3 月 15 日 | Al Yemen TV 「Launching the fifth phase of the emergency relief project for the affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供)                                                                                    |
| 3 月 16 日 | Al-taqeer Net 「About 831 HH have benefited from the CSSW and ICAN organization in phase five for emergency relief project in Taiz by fund of JPF」 (イエメンでの食糧提供)                                          |
| 3 月 16 日 | Suhail TV 「Launching the fifth phase of the emergency relief project for the affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供)                                                                                      |
| 3 月 16 日 | Sanaa TV 「Launching the fifth phase of the emergency relief project for the affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供)                                                                                       |
| 3 月 16 日 | Yemen Shabab TV 「Launching the fifth phase of the emergency relief project for the affected people in Taiz」 (イエメンでの食糧提供)                                                                                |
| 3 月 22 日 | NHK オンライン「内戦で深刻な食糧不足イエメンの支援呼びかけるシンポジウム」(イエメン)                                                                                                                                                           |
| 3 月      | 中京大学同窓会通信 2017Vol.35 「アイデンティティはひとときわ輝く」(職員インタビュー)                                                                                                                                                       |
| 4 月 21 日 | 中日新聞 「古本、CD 回収 比の子支援」(古本回収活動)                                                                                                                                                                           |

## I、危機的状況にある子どもたちと「ともに」行うプログラム



### 1、紛争の影響を受けた子どもたち（2006年～）

#### ■フィリピン共和国ミンダナオ島（2006年～）

##### (1) 背景

ミンダナオ島コタバト州ピキット町周辺では、長年の紛争で約60%の住民が住む土地を追われ、今もなお、武力衝突が続いています。アイキャンは、2006年より学校整備や研修を通して、この地域で平和を促進する学校「平和の学校（School of Peace）」作りを進めてきました。

##### (2) 事業地 ミンダナオ島コタバト州ピキット町

##### (3) 実施事務所 ミンダナオ中部事務所（コタバト市）

##### (4) 事業のパートナー

ピキット町紛争地の子どもと大人784名

##### (5) 主な成果

- ・56名の教育省職員及び州・市の担当官等が、平和教育導入や「平和の学校」普及の重要性を理解しました。
- ・95名の教師が、平和教育の基礎や教授法を学び、計12の授業案が完成しました。また284名の教師、高校生、地域リーダーが「平和の学校」について理解しました。
- ・4校が「平和の学校」として教育省に認定されました。
- ・240名の子どもの教育環境が向上しました。
- ・ピキット11村98名の村役員及び、46名のMILF元兵士の紛争の平和的解決能力が向上しました。

##### (6) 特記事項

- ・ピキット南西部での中期3年計画(2015-17)に基づく2年目が終了しました。

##### (7) 内容

- 1) ARMM 地方「平和の学校(School of Peace)」基礎研修  
ミンダナオ島 ARMM 地方の教育省職員 22 名に対し、平

和教育普及を目的とした研修を計 3 回実施し、延べ 44 名が参加しました。また、平和教育に積極的な学校が集まり学びあう「平和の学校 कांग्रेस」が開催され、教育省職員及び教師等 49 名が参加しました。

##### 2) ピキット南部における「平和の学校」研修

###### ① 「平和の学校」研修の実施

対象4校の教師95名に、「平和教育」に関する研修を計8回行い、延べ254名が参加しました。計4回の「平和の学校連携会議」には、高校生、教師、地域リーダー、行政担当者計284名、延べ436名が参加しました。

###### ② 平和の学校宣言

教育省、MILF、国際停戦監視団、日本大使館等の代表が参加する中、対象4校の高校の生徒、教師、住民計366名が「平和の学校」宣言を行いました。

##### 3) ピキット南部における「平和の学校建設」

アティップ・マカリガン高校3教室(120名用)、カバサラン高校3教室(120名用)を建設し、各教室に生徒の椅子と教師の机・椅子が整備され、引渡し式典を行いました。

##### 4) 村役員に対する紛争調停能力向上研修

11村の役員等98名に対し、紛争の平和的解決手法に関する研修を計4回実施し、延べ113名が参加しました。

##### 5) MILFに対する紛争調停能力向上研修

モロ・イスラム解放戦線 (MILF) 46名に対し、紛争の平和的解決手法に関する研修を計3回実施し、延べ69名が参加しました。

##### 6) 紛争時の国内避難民の保護と新規事業ニーズ調査

ユニセフと協働で、幼児への平和教育及び子ども兵士防止に関する新規事業のニーズ調査を実施しました。





■イエメン共和国（2015年～）

■ジブチ共和国（2015年～）

#### (1) 背景

イエメンでは、2015年3月から紛争が激化し、深刻な食糧不足に陥ったことで、約280万人が国内避難民となり、約2万人弱が対岸のジブチに逃れました。アイキャンは、2015年12月より、両国での活動を開始しました。

#### (2) 事業地

- ①イエメン共和国 ハッジャ州、タイズ州
- ②ジブチ共和国 オボック市マルカジ難民キャンプ

#### (3) 実施事務所

- ①サナア事務所（サナア市）、ハッジャ事務所（ハッジャ州）、タイズ事務所（タイズ州）
- ②ジブチ事務所（ジブチ市）、オボック事務所（オボック市）

#### (4) 事業のパートナー

イエメンの国内避難民11,265世帯、ジブチの難民の子ども574名及びその保護者665名、アニメーター26名

#### (5) 主な成果

- ・①において、国内避難民を中心とする8,876世帯（53,256名）が、空腹を満たすことができ、2,389世帯（14,334名）が、生活必需品を得ることができました。
- ・②において、イエメン難民の子ども574名が、安心・安全に、楽しく過ごせる時間を得ました。
- ・②において、保護者665名、アニメーター26名が、子どもの権利についての理解を深めました。

#### (6) 特記事項

- ・10月より、②の「子どもの広場」の運営を、難民ボランティア主体の運営体制へ移行しました。

#### (7) 内容

##### 1) 食糧の提供

①の国内避難民等8,876世帯（53,256名）に、小麦粉、米、砂糖、食用油、牛乳を、2,389世帯（14,334名）に、石鹸、タオル、洗剤、バケツ、生理用品を提供しました。

##### 2) 「子どもの広場」の運営

②において、スポーツやお絵かき、歌などの活動を計233回行い、574名（延べ10,799名）が参加しました。また、隣町へのキャンプ外研修を4回実施し、79名が参加しました。

##### 3) 「子どもの広場」の建設と拡張・強化

②において、「子どもの広場」を建設し、その後拡張・強化するための工事を行いました。

##### 4) アニメーター研修の実施

②において、「子どもの広場」の活動を担うアニメーター26名に対し、子どもの権利や「子どもの広場」運営等に関する研修を計4回行い、延べ36名が参加しました。

##### 5) 保護者講習会の開催

②の保護者計665名に、子どもの権利についての講習会の開催（計4回）や、チラシでの啓発を行いました。

##### 6) 子どもへの衣類の提供

②の2～11歳の子ども331名に、服と靴を提供しました。

#### (8) 収支実績

紛争の影響を受けた子どもたちの事業全体

収益 200,112,290 円 費用 201,974,995 円

（フィリピン収益 50,876,035 円、費用 58,308,873 円）

（イエメン収益 131,034,628 円、費用 126,811,154 円）

（ジブチ収益 18,201,627 円、費用 16,854,968 円）



## 2、路上の子どもたち（2006年～）

### (1) 背景

フィリピンには、路上の子どもが約25万人いるとされ、その多くは、物乞いや物売り等で生計を立てています。このような状況に対し、アイキャンは、2006年より路上の子どもたちとの活動を行ってきました。

### (2) 事業地

マニラ首都圏（マニラ市、ケソン市）、サンマテオ市

### (3) 実施事務所 マニラ事務所（ケソン市）

### (4) 事業のパートナー

ケソン市・マニラ市計5ヶ所の路上の子ども 368名

### (5) 主な成果

- ・路上の子ども 141名の教育環境や栄養状態が改善されるとともに、209名の路上の子どもが、教育を受ける機会得ました。

- ・「子どもの家」で暮らす元路上の子ども6名の、生活環境や教育環境、栄養状態が改善されました。

- ・元路上の若者による協同組合カリエの12名が、カフェの運営に関する知識を向上させました。

### (6) 特記事項

- ・路上の子ども・若者たちの協同組合「カリエ」が運営するカフェを、フィリピン大学内に移転しました。

### (7) 内容

#### 1) 路上教育・保健教育活動

児童養護施設「子どもの家」の子ども6名が、路上の子ども187名（延べ251名）に対し、道徳等を含む路上教育を5回実施しました。また、看護師のスタッフが、基礎的な疾病の予防法や対処法に関する保健教育を行うと

ともに、子どもの病気や怪我に随時対応しました。

#### 2) カウンセリング活動

ドロップインセンター（一時保護施設）に通う路上の子ども141名及び「子どもの家」の子ども6名に対し、ソーシャルワーカーによるカウンセリングを行いました。

#### 3) ドロップインセンターの運営

ドロップインセンターを152日開所し、路上の子ども141名（延べ2,232名）に対し、識字教育、シャワー、栄養価の高い食事、仮眠場所を提供しました。

#### 4) 環境教育、植栽活動

「子どもの家」の子ども及び路上の子ども計11名に対し、環境教育と植栽活動を行いました。また、「子どもの家」の子ども6名が、落ち葉やミミズ、野菜くずや卵の殻などを利用して、コンポスト（堆肥）を作りました。

#### 5) 協同組合カリエとカフェカリエの運営強化

カフェカリエの運営メンバー12名に対し、組織やカフェの運営への助言を行うとともに、フィリピン大学ディリマン校内へのカフェ店舗移転の補助を行いました。

#### 6) 児童養護施設「子どもの家」の運営

身寄りのない元路上の子ども6名に、食事の提供や健康管理、通学経費の補助を行いました。また、カウンセリング場所として、敷地内にコテージを2つ設置するとともに、研修用に備品を整備しました。

#### 7) リーダー育成研修

「子どもの家」の子ども及び路上の子ども・若者計113名に対し、路上教育の担い手となるための育成研修を6回実施し、延べ158名が参加しました。

(8) 収支実績 収益7,446,980円 費用8,210,731円





### 3、先住民の子どもたち（1996 年～）

#### (1) 背景

ミンダナオ島の山奥には、近代社会と隔離された状態で伝統的な生活を保っているブラアンやティボリ、ヒガオノン、マノボといった先住民が住んでいます。村では、簡単に治療できるはずの病気で命を落とす子どもも多く、また学校の教室不足や教師の先住民文化に対する無理解等の課題がありました。このような状況に対し、アイキャンは、先住民の人々の生活向上を目的に、教育や保健等の活動を実施してきました。

#### (2) 事業地

ミンダナオ島ブキドノン州サンフェルナンド町等

#### (3) 実施事務所

ミンダナオ北部事務所

#### (4) 事業のパートナー

先住民ティグワハノンの子ども 100 名、教師、校長、住民等 168 名

#### (5) 主な成果

- ・100 名の子どもたちの教育環境が向上しました。
- ・教師対象の研修において作成された、先住民ティグワハノンの子どもたちに適したカリキュラムと教材が、2017 年 6 月より先住民公立小学校で導入されることが決まりました。
- ・86 名の教師等が、先住民の子どもたちに適した教授法について理解し、スキルを身につけました。
- ・69 名の校長等が、先住民地域における学校の運営方法についての知識を向上させました。
- ・43 名の先住民の親が、PTCA に関する知識、活動実施能

力を向上させました。

#### (6) 特記事項

- ・2016 年 3 月から 1 年 1 ヶ月間の事業が終了しました。
- ・ブキドノン州教育省より、2016 年に同州の教育に最も貢献した NGO として表彰されました。

#### (7) 内容

##### 1) 小学校校舎の建設

サルマヤグ村において、小学校1棟2教室の建設と100名分の机・椅子・黒板等の備品の整備を行いました。

##### 2) 教師の能力強化研修

教師や地域リーダーを対象に、「先住民の子どもに適した教育」に関する研修を11回実施し、計86名（延べ392名）が参加しました。うち4回の研修を通して、先住民ティグワハノンの子どもに適したカリキュラムを作成しました。

##### 3) 先住民地域の学校運営強化研修

校長や教師、地域リーダーを対象に、「先住民の学校運営」に関する研修を5回実施し、計69名（延べ191名）が参加しました。

##### 4) PTCA の能力強化研修

地域住民を対象に、PTCA（Parents-Teachers Associations）の組織化、活動実施能力強化等の研修を計6回実施し、計43名（延べ169名）が参加しました。

##### 5) 次年度以降の事業方針の作成

州教育省や先住民地域にてニーズ調査を行い、2017年の活動計画を立案しました。

#### (8) 収支実績 収益28,450,513円 費用31,717,341円





#### 4、ごみ処分場周辺に住む子どもたち（1997 年～）

##### (1) 背景

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があります。ここでは約4,000名がリサイクルできる資源を回収し、販売することで生計を立てています。ごみ山は深刻な健康被害をもたらしており、適切な医療を受けられないことは大きな課題となってきました。これに対し、アイキャンは、住民とともに2002年より保健・医療活動を行う一方、2010年に住民の協同組合（PICO）を設立し、その組合がすべての医療や教育等の活動費を捻出し、運営する体制へと発展させてきました。また、2005年に独立したフェアトレード生産者団体（SPNP）の運営に助言を行ってきました。

##### (2) 事業地 マニラ首都圏ケソン市

##### (3) 実施事務所 マニラ事務所（ケソン市）

##### (4) 事業のパートナー

パヤタスごみ処分場周辺地域に住む住民13名

##### (5) 主な成果

- ・ SPNPのメンバー6名の組織運営、商品製作に関する知識・技術が向上し、新商品6種類を開発しました。
- ・ PICOのメンバー10名が、今後の運営についての理解を深めました。
- ・ 複数の重い疾患を抱える子ども1名が、治療を継続的に受けることができました。

##### (6) 特記事項

- ・ ごみ処分場の拡大に伴う立ち退きが一段落し、PICOの経営強化のための話し合いを開始しました。

- ・ 2016年10月より、PICOのケアセンターを、行政が運営するデイケアセンター（保育園）に貸し出しました。

##### (7) 内容

##### 1) フェアトレード生産者団体（SPNP）への助言業務

###### ①新商品開発への助言

SPNPメンバー6名に対し、売上増加のための新商品開発や試作、修正への助言を行い、6種類を新商品として製作しました。また、製品全体を見直し、古いデザインや売れ行きが芳しくない製品は廃版にしました。

###### ②組織強化研修

SPNPメンバーが抱える問題を自ら解決できるよう、チームビルディングや生産量改善に関する研修を計3回実施し、6名（延べ18名）が参加しました。

###### ③ネットワーキングの補助

SPNPとともに、マニラ首都圏内のイベントに参加し、商品を販売すると同時に、NGOや個人、企業等とのネットワーキングの強化を補助しました。

##### 2) 多目的協同組合（PICO）の経営強化活動

PICOのメンバー10名とともに、今後の事業方針策定のための会議を1回行い、医療活動を軸とした事業を実施していくため、医師とのスケジュール調整や、ケアセンターの修理・改装の計画を立てました。

##### 3) 医療補助

肺炎と肺塞栓症、結核、先天性心疾患、ファロー四徴症を患っている子ども1名に対し、医療費、薬・ワクチン代、通院のための交通費等の医療補助を行いました。

(8) 収支実績 収益104,620円 費用299,968円



## 5、自然災害の影響を受けた子どもたち（2006年～）

### ■台風ハイエン（フィリピン名：ヨランダ）（2013年～）

#### (1) 背景

世界中で発生する大規模災害は、人々に苦しみと恐怖をもたらし続けています。2013年11月の台風ハイエンでは、レイテ島東部の住宅や学校の多くが倒壊し、アイキンは、被災直後から緊急救援活動を開始しました。

#### (2) 事業地 レイテ島レイテ州ドゥラグ町

#### (3) 実施事務所 レイテ中部事務所（タクロバン市）

#### (4) 事業のパートナー レイテ被災者約720名

#### (5) 主な成果

- ・約720名の子どもたちが、向上した教育環境で勉強を継続することができました。

#### (6) 特記事項

- ・災害に強い村づくりと生計向上活動のためのニーズ調査は、次年度へと持ち越しとなりました。

#### (7) 内容

##### 1) 建設・修復した校舎のモニタリング

2014年度、2015年度に建設・修復をした小学校のうち、2校計16教室のモニタリングを実施しました。

##### 2) 災害に対する備え

大規模な災害の発生に備え、日本では非常事態の対応について整備を進めました。

##### 3) 新たな災害への緊急支援と復興の活動

フィリピンでは、現地政府のみでの対応が不可能な災害が発生しなかったため、実施しませんでした。

#### (8) 収支実績 収益57,285円 費用832,951円

## 6、ジェネラルサントスの子どもたち（1994年～）

#### (1) 背景

ミンダナオ島南部の地方都市、ジェネラルサントスでは、経済的理由により、公立学校にさえ子どもを通わせ続けることができない家庭が少なくありません。アイキンは1994年より、奨学金の提供等を行ってきました。

#### (2) 事業地

ミンダナオ島南コタバト州ジェネラルサントス市

#### (3) 実施事務所 ミンダナオ南部事務所

#### (4) 事業のパートナー 奨学生5名（大学生5名）

#### (5) 主な成果 奨学生5名が、通学を継続できました。

#### (6) 特記事項

- ・本事業では新規の奨学生を募集せず、2005年時点で約200名いた奨学生が全員卒業するまで事業を行います。

#### (7) 内容

##### 1) 通学補助（学用品や通学経費等の提供）

奨学生5名に対し、学用品（ノート、鉛筆、ペン、消しゴム）、制服、傘、鞆、靴等通学に必要な備品や学費、通学交通費、教材費、卒業経費等を提供しました。

##### 2) 緊急医療補助 奨学生の入院等はありませんでした。

##### 3) カウンセリング・相談

奨学生が継続して通学できるよう、家庭や学校と毎月連絡を取り合いました。

##### 4) 「子ども集会」の開催（1回）

奨学生とその保護者が集い、子どもの権利や子どもの教育における保護者の責任について議論しました。

#### (8) 収支実績 収益22,571円 費用119,163円



## II、「できること（ICAN）」を増やすプログラム



### 7、国際理解教育（開発教育）事業（1994 年～）

#### (1) 背景

情報化社会が進み、あらゆる情報をより容易に得やすくなってきているものの、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「声」が社会に伝わる機会は、未だ限られています。アイキャンは、1994 年より、国や地域を超えて相互理解を促進する様々な活動を行ってきました。

#### (2) 事業地 日本、フィリピン各地

#### (3) 実施事務所 全事務所

#### (4) 事業のパートナー 一般市民 7,027 名・253 校

#### (5) 主な成果

- ・7,027 名の国際理解を促進することができました。
- ・253 校の国際理解教育の環境作りに貢献しました。

#### (6) 特記事項

- ・愛知県の若者がマニラの路上の子どもたちとスカイプで交流する活動を、昨年度に引き続き実施しました。
- ・海外研修・事業地訪問受け入れは、本年度より、「スタディツアー・海外研修事業」に統合しました。

#### (7) 内容

##### 1) 学校での授業・講義 12 件、1,661 名

①日本：聖霊中学高等学校、長野県上田高等学校、中京大学、名古屋外国語大学、みよし市立三好丘小学校、愛知県立南陽高等学校、豊明市立三崎小学校、知多市立旭北小学校、幸田町立南部中学校

②フィリピン：マニラ日本人学校、イキェルト・コンセプション・スクール・オブ・バリワグ（ICSB）、デ・ラ・サール大学

##### 2) イベント講演 4 件、153 名

コープあいち（2 回）、ゆうちょ財団平成 28 年度国

際協力報告会、ジャパン・プラットフォーム主催「イエメ人道危機対応」プログラムイベント

##### 3) 自主イベント等 7 件、35 名

インターン説明会（3 回）、ボランティア入門講座、帰国報告会（3 回：福田、羽根、高橋）

##### 4) 事務所訪問受け入れ 9 件、59 名

愛知大学、愛知工業大学名電高等学校、愛知美術研究所、聖霊中学高等学校、愛知県立名古屋西高等学校、愛知県立常滑高等学校、犬山市立犬山中学校、愛知工業大学附属中学校、名古屋女子大学中学校

##### 5) 絵手紙大会（トゥライプロジェクト）

全国の小中高生とフィリピンの子ども計 4,897 名が参加しました。「私が作りたい町」をテーマに描いた絵とメッセージを載せた絵手紙は、日本及びフィリピンの参加者に届け、各地で展示や配布が行われました。

##### 6) スカイプ交流 11 件、222 名

愛知県内の学生や社会人が、マニラの路上の子どもたちとスカイプで交流する活動を、一般市民（4 回）、企業社員（1 回）、6 つの中学・高校（名古屋市立北高等学校、愛知県立常滑高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、愛知県立刈谷北高等学校、愛知県立半田工業高等学校、椋山女学園高等学校）の生徒を対象に行いました。

##### 7) 路上の子どもについてのブックレット作成

路上の子どもの経験や児童養護施設「子どもの家」入所後の変化をまとめたブックレット（日英）を計 7,500 部作成し、253 校の学校や寄付者等へ郵送したほか、日本事務局の来訪者に配布しました。

##### (8) 収支実績 収益 1,274,160 円 費用 1,102,847 円



## 8、語学教室（スマイルチケット）事業（2011 年～）

### (1) 背景

世界中の人々が地球規模の課題に対して協働することが求められる中、また、グローバル化が進み在日外国人の数が増える現在、意思疎通手段としての「語学力」が重要になっていますが、母語以外の言葉で議論をする機会は依然として限られています。アイキャンでは、市民の語学力向上と、異文化理解や開発課題に関する理解の促進を目指して、語学教室を開講してきました。

### (2) 事業地 愛知県（日本事務局事務所内）

### (3) 実施事務所 日本事務局

### (4) 事業のパートナー 一般市民 39 名、外国人講師 11 名

### (5) 主な成果

- ・一般市民 39 名の英語・タガログ語・日本語が向上し、異文化や地球的規模の課題への理解が促進されました。

### (6) 特記事項

- ・受講者の増加に伴い、英語初級クラスとタガログ語初級クラスを増設しました。

### (7) 内容

#### 1) 語学教室（スマイルチケット）の運営

##### ① 通常講座：英会話

フィリピン人講師 6 名、アメリカ人講師 1 名のもと、29 名の生徒に対し、以下のクラスを計 291 回開講しました。

- ・「ゼロから始める英会話」：初心者を対象とした、簡単な日常英会話や文章の組み立て方を学ぶ授業
- ・「趣味の英会話」：初級～中級者を対象とした、趣味や仕事、日常生活などについて話す授業

- ・「海外ニュースの英会話」：上級者を対象とした、国際記事や社会問題等について議論する授業

##### ② 通常講座：タガログ語

フィリピン人講師 8 名のもと、13 名の生徒に対し、以下のクラスを計 124 回行いました。

- ・「タガログ語初級クラス」：初級者を対象とした、簡単な挨拶や自己紹介、数字等の授業
- ・「タガログ語中級クラス」：初級～中級者を対象とした、日常生活で必要となる単語や会話等の授業

### 2) 授業の質の向上

講師から生徒へのコメントシートを作成し、講師や生徒への聞き取りによって成長の進度を適宜把握するとともに、授業内容を調整し、生徒にとっての授業の質を高めました。

### 3) フィリピンでの事業進捗報告の強化

生徒の受講意欲を高めることを目的に、毎回の授業の中で 5 分程度、写真でフィリピンでの最新の活動を紹介しました。また、会報やマンスリーレポートなど、事業進捗をまとめたものを生徒へ随時配布しました。

### 4) イベントの実施

生徒との合同企画として、9 月に BBQ、12 月にクリスマス会を開催し、計 39 名、延べ 43 名が参加しました。また、10 月には、1 週間通してハロウィンの企画を行いました。

### 5) 広報やキャンペーンの強化

受講者を増加させるため、説明会や体験の案内、友達紹介割引の広報を強化しました。

### (8) 収支実績 収益 2,248,250 円 費用 919,145 円





## 9、スタディツアー・海外研修事業（2000年～）

### (1) 背景

危機的状況にある子どもたちの課題を解決するためには、それを「自分の問題」として認識し、一人一人が解決への行動を起こす必要があります。そのきっかけ作りとして、アイキャンは2000年より、路上やごみ処分場周辺の子どもたち、児童養護施設の子どもたちと日本の市民の交流を行う、スタディツアー等を実施してきました。

(2) 事業地 マニラ市、ケソン市、サンマテオ市

(3) 実施事務所 日本事務局、マニラ事務所

(4) 事業のパートナー

日本の一般市民194名、フィリピンの子ども251名

### (5) 主な成果

・日本の一般市民とフィリピンの子どもたち計445名が、世界規模の課題やNGOの活動について理解を深めるとともに、相互理解を促進しました。

### (6) 特記事項

・大学と連携の元、海外ボランティアを実施しました。

### (7) 内容

1) スタディツアー・海外ボランティア 6件、46名

#### ①スタディツアー：4泊5日（計4回）

路上の子どもたちやごみ処分場周辺地域の住民との交流を通して、社会問題について学ぶツアーを、下記の通り実施しました。

- ・2016年8月17日から8月21日（4泊5日）11名参加
- ・2016年8月31日から9月4日（4泊5日）5名参加
- ・2016年9月7日から9月11日（4泊5日）11名参加
- ・2017年2月22日から2月26日（4泊5日）8名参加

#### ②海外ボランティア：4泊5日（計2回）

路上の子どもたちと交流し、児童養護施設「子どもの家」でのボランティア活動を行うツアーを、下記の通り実施しました。

- ・2016年9月14日から9月18日（4泊5日）6名参加
- ・2017年3月16日から3月20日（4泊5日）5名参加

#### ③説明会の実施と広報活動

海外ボランティア・スタディツアーの説明会に参加し、57名の市民にツアーの案内をしました。また、7,000枚のチラシを作成し、郵送・配布しました。

#### ④帰国後の報告会の機会の提供

参加者が、イベントや各自の所属先で報告しました。

### 2) 海外研修 2件、32名

学校と連携し、海外研修を下記の通り行いました。

#### ①名古屋国際高等学校（2016年6月26日から7月10日）

内容：フィリピンの高校3校の訪問、路上やごみ処分場周辺の子どもたちとの交流や合宿、現地で活躍する日本人（JICA、日系企業、社会起業家）の訪問等

#### ②長野県上田高等学校（2017年3月6日から3月12日）

内容：路上やごみ処分場周辺地域の子どもたちとの交流、高齢者福祉施設及びNGO、現地で活躍する日本人（JICA、病院、飲食店）の訪問等

#### 3) 事業地訪問の受け入れ 12件、116名

在フィリピン大使夫人の会（SHOM）、JICA教師海外研修、マイチケット、広島学院中学高等学校、明治大学、東京学芸大学附属国際中等教育学校、ICSB、JICA職員、個人寄付者（2件）、1日事業地体験2回。

(8) 収支実績 収益7,018,012円 費用6,775,044円





## 10、フェアトレード事業（2000年～）

### (1) 背景

買い物を通じて平和な社会の構築を目指すフェアトレード（公正な貿易）運動が盛り上がりを見せていますが、生産者の声を届ける機会は限られています。長年生産者と深く関わってきたアイキャンは、経験を基にフェアトレードの意義や生産者の声を広く市民に伝えると同時に、パヤタスごみ処分場で活動する生産者団体SPNPをはじめとする各団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上、日本の消費者との橋渡しを行ってきました。

### (2) 事業地 日本全国、マニラ首都圏

### (3) 実施事務所 日本事務局、マニラ事務所

### (4) 事業のパートナー 一般市民754名

### (5) 主な成果

- ・一般市民754名（※）に、生産者の状況やフェアトレードの重要性を伝えました。※委託等を通じた販売者数は含まず。
- ・8つの店舗・団体に商品を納入し、販売を全国で行うことができました。

### (6) 特記事項

- ・販売ボランティアは、51名（延べ69名）でした。

### (7) 内容

#### 1) フェアトレード商品の販売

フィリピンから、フェアトレード商品生産者団体SPNPの商品を仕入れ、下記のイベント等で販売しました（委託販売含む）。

#### ① イベント等での販売先（委託含む） 37件

淑徳大学 ICAN+S、デンソーハートフルまつり、長野

県上田高等学校、聖霊中学高等学校 DAC 部、愛知県立常滑高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、環境デー、名古屋国際中学校・高等学校、グローバルフェスタ、YWCA バザー、AHI オープンハウス、オールトヨタビッグホリデー 2016、ワールドコラボフェスタ、青山学院大学、ぼらマッチ！なごや、愛知工業大学名電高等学校、パロールフェスタ、ふれあいフェスタ、三重県立亀山高等学校インターアクト部、東京国際大学、浜松インターナショナルスクール、ドルチェリアカフェ・プリンチペ、北海道南富良野高等学校ボランティア同好会、ワンワールドフェスティバル、日本郵船活動報告会、順天高等学校、ゆうちょ財団国際協力報告会、マニラ日本人会文化祭、CFF 訪問販売（4回）、日本人会ハンディクラフトバザー、MJS 祭、スポーツフェスタ、ソルトバザー、日本人会盆踊り大会

#### ② 委託・買取店 計8店舗・団体

フェアトレードショップ風”s、フェアビーンズなごや地球ひろば店、JICA東京、カフェアイリス、名古屋YWCA、ICAN大阪支部、ユニカセ、JICAフィリピン

#### 2) 広報物や展示方法の改善

ウェブサイトからの注文者に対し、より生産者の状況を伝えられるよう、商品に同封する資料を改善しました。

#### 3) フェアトレードの啓発活動

フェアトレードに関心を持つ高校・大学生の事務所訪問を受け入れ、勉強会を実施しました。フィリピンにおいては、迅速に注文に対応できるよう、マニュアルや注文票、納品書等の改善を行いました。

#### (8) 収支実績 収益953,252円 費用2,885,908円



## 11、NGO 相談員事業（2010 年～）

### (1) 背景

一般市民の NGO に対する認知度は高くなく、特に地方の NGO 活動の活性化が求められています。アイキャンは、NGO の能力強化と認知度向上を目的とした「NGO 相談員」を外務省より受託してきました。

### (2) 事業地 中部 8 県（担当ブロック）及び全国

### (3) 実施事務所 日本事務局

### (4) 事業のパートナー 一般市民 1,309 名

### (5) 主な成果

市民 1,309 名の NGO に関する知識が向上しました。

### (6) 特記事項 今年度新たに三重県も担当しました。

### (7) 内容

1) 通常相談業務 1,309 件：5 月 80 件、6 月 118 件、7 月 111 件、8 月 93 件、9 月 108 件、10 月 121 件、11 月 108 件、12 月 106 件、1 月 111 件、2 月 133 件、3 月 127 件、4 月 93 件

2) 出張相談業務 13 件（相談 5 件、講演 2 件、セミナー 5 件、会議参加 1 件）：国土館大学、静岡文化芸術大学、ぼらマッチ!なごや、JICA 北陸国際協力推進員会議、NGO-JICA 協議会、石川県 NPO 活動支援センター、富山県民ボランティア総合支援センター、とやま国際センター、グローバルフェスタ、ワールドコラボフェスタ、可児市多文化共生フェスティバル、JICA 三重県デスク、三重県国際交流財団、三重県環境生活部多文化共生課、みえ NPO ネットワークセンター、三重県雇用経済部国際戦略課、鈴鹿国際交流協会、ワンワールドフェスティバル

3) 全国相談員会議出席 計 2 回：6 月東京、12 月岡山

(8) 収支実績 収益 3,202,275 円 費用 3,604,670 円

## 12、NGO 外務省連携推進事業（2016 年～）

### (1) 背景

日本の NGO と外務省の連携が加速されることで、世界各地のより多くの開発課題を解決できることが見込まれています。アイキャンは、2016 年 11 月より、全国の NGO と外務省の公式の協議の場である「NGO 外務省連携推進委員会」の NGO 委員（名古屋 NGO センター選出）となり、2017 年 4 月からは同副座長として連携を促進しています。

### (2) 事業地 愛知県及び全国

### (3) 実施事務所 日本事務局

(4) 事業のパートナー NGO 連携推進委員 10 名、名古屋 NGO センター政策提言委員 10 名

### (5) 主な成果

・地域や規模に関わらず、全国の NGO が 1 つとなって、外務省との連携を議論する基盤を構築しました。

(6) 特記事項 外務省から NGO への資金提供制度の改良について外務省と全国の NGO との対話を開始しました。

### (7) 内容

1) NGO 外務省第二回連携推進会議出席（東京）28 名  
総括として「危険地域における NGO の活動」等。

2) NGO 外務省第三回連携推進会議出席（福岡）22 名  
「アフリカにおける日本の NGO の貢献」の報告、「外務省の資金スキームの質の向上」についての協議等。

### 3) 連携推進委員会の強化

NGO 側連携推進委員を 4 名から 10 名に増強、2017 年度の事業計画・予算計画を策定しました。

4) 名古屋 NGO センター政策提言委員会出席

(8) 収支実績 収益 0 円 費用 3,757 円





### 13、インターンシップ事業(2010 年～)

#### (1) 背景

NGO への就職希望者は増えているものの、即戦力となるための経験を得られる機会は限られています。アイキャンでは、一定期間の就業機会を提供することで、将来 NGO スタッフとして活躍する人材を育成してきました。

#### (2) 事業地 愛知県、マニラ首都圏

#### (3) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所、レイテ中部事務所

#### (4) 事業のパートナー インターン 6 名

#### (5) 主な成果

- ・日本事務局のインターン 3 名が、NGO の日本事務所で必要となる業務に関する知識と経験を得ました。
- ・マニラ事務所のインターン 3 名が、住民とのコミュニケーションや事業実施における知識と技術を得ました。

#### (6) 特記事項

- ・インターンを修了した 1 名を、12 月より日本事務局職員に採用しました。

#### (7) 内容

##### 1) 日本でのインターンの受け入れ 3 名

フェアトレード事業でのイベント出店や、MY アイキャン事業での街頭募金及びボランティアコーディネート、語学教室事業や総務業務の補佐等を担当しました。

##### 2) フィリピンでのインターンの受け入れ 3 名

フェアトレード商品生産者団体 SPNP の運営や、児童養護施設「子どもの家」運営の補助業務等を担当しました。

#### (8) 収支実績 収益0円 費用0円 (各事業振り分け)

### 14、MY アイキャン事業 (2013 年～)

#### (1) 背景

地球規模の課題に対し、生まれ育った地域で行動できる機会は限られています。アイキャンでは、地域で「できること (ICAN)」を実践する機会を提供してきました。

#### (2) 事業地 日本、フィリピン

#### (3) 実施事務所 日本事務局

#### (4) 事業のパートナー 106法人、一般市民3,686名

#### (5) 主な成果

- ・106法人、市民3,686名が「できること」を実践しました。

#### (6) 特記事項

- ・物品収集活動が、メディア3件に取り上げられました。

#### (7) 内容

##### 1) 物資の収集活動 (67 法人、1,730 名)

ハガキ 5,499,840 円分と未使用切手 1,567,547 円分、未使用テレカ 754,518 円分、商品券 278,393 円分を収集でき、古本・CD・DVD は 219,018 円分集まりました。

##### 2) 各地のボランティア活動の促進

東海在住の 197 名 (延べ 273 名) のボランティアが、街頭募金を 12 回行い、延べ 1,552 名から 400,731 円が集まりました。また、172 名 (延べ 851 名) のボランティアが、物品寄付カウントや発送作業、日本語が読めない子どもに学校のプリントの翻訳 130 件等をしました。イベントでは、中部で 39 名、東京で 10 名、大阪で 2 名のボランティア (延べ 69 名) が中心となり、フェアトレード商品を販売しました。他にも、多くの学校や企業、団体等に、ボランティア活動の啓発を行いました。

#### (8) 収支実績 収益 0 円 費用 0 円 (各事業振り分け)

### 3、会議の開催に係る事項

#### A、総会

##### (1) 2016 年度総会

###### 1) 開催日及び場所

- ・2016 年 7 月 30 日（土）
- ・日本事務局

###### 2) 議案

- ① 2015 年度事業報告書について
- ② 2015 年度決算書類について
- ③ 役員報酬規定

#### B、理事会

##### (1) 2016 年度第一回理事会

###### 1) 開催日及び場所

- ・2016 年 7 月 27 日（水）
- ・定款に基づき電子メールにて実施

###### 2) 議案

- ① 総会の開催について
- ② 2015 年度事業報告書（案）について
- ③ 2015 年度決算資料（案）について
- ④ 役員報酬規定

##### (2) 2016 年度第二回理事会

###### 1) 開催日時及び場所

- ・2016 年 9 月 28 日（水）
- ・定款に基づき電子メールにて実施

###### 2) 議案

- ① 2016 年度事業計画について
- ② 2016 年度予算計画について
- ③ フィリピン法人 resident agent の変更について

上記のほか、理事及び職員間で、活動や予算の執行状況等について話あった。

以上